

# 平成20年度 終了評価書

研究機関 : (株)横須賀テレコムリサーチパーク  
研究開発課題 : アジア・ユビキタスプラットフォームに関する研究開発  
研究開発期間 : 平成17 ~ 19 年度  
代表研究責任者 : 坂村 健

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

期待以上の優れた研究成果が得られた。

(コメント)

- 研究開発成果を生かしつつ、実際に国をまたがったアジア規模の電子タグ利用実証実験を実施している点が高く評価できる。
- ITU-TでのUコードのアーキテクチャの国際標準化に寄与した。

## (1) 事業の目的および政策的な位置付け : 評価 A

### (総論)

事業目的は現時点でも妥当性があり、政策的な位置づけも明瞭であり、国が推進すべき重要な事業である。

### (コメント)

- 政策的に確かなコンセプトに基づいている。
- 人の交流のみならず大規模な物流が存在する近隣アジア諸国との連携を狙ったプロジェクトであり、まさに国が中心となって推進するのが相応しい課題である。

## (2) 研究開発目標 : 評価S

### (総論)

目標設定時に増してアジア地域との連携強化が重要となってきており、設定目標は極めて有効で、検証のための国際共同実験も極めて効果的であった。

### (コメント)

- プラットフォームとしての一般化が行われており、成果の適用領域は広い。
- コンテキストアウェアなアーキテクチャはユビキタスの考え方に整合している。
- 4つの基盤技術の研究開発によるプラットフォーム化に加えて実証実験(日本+3カ国間)が目標として掲げられており極めて適切である。

### (3) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む) : 評価A

#### (総論)

適切かつ効率的な研究開発マネジメントが行われたと認められる。さらに、独創的な取組等によってマネジメントの改善が図られるなど、優れた点が認められる。

#### (コメント)

- 3年間のプロジェクト期間中にアジア・ユビキタスプラットフォームの研究開発に加え、海外拠点の設立、そしてそれらを介した国際実証実験まで行った点は大いに評価できる。

### (4) 研究成果の達成状況 : 評価A

#### (総論)

計画とおりの成果が得られ、かつ、一部に進歩的な成果等が認められる。

#### (コメント)

- 動的な国際認証技術はすぐれた着想であり、検証内容も妥当である。
- 必要度に応じて認証強度(メカニズム)を動的に切り替える技術やコンテキストによるID補間技術などアジア規模のユビキタスネットワークに不可欠な技術開発が行われている。
- 多数の実証実験、とりわけアジア規模の実証実験が成功裏に実施された点が評価できる。
- 機能面、性能面でのより一層の評価検証が望まれる。

(5) 研究開発成果の展開および波及効果 : 評価S

(総論)

国際共同実験を行ったアジア地域からも事業展開に対する極めて強い期待が寄せられるなど、成果の広範囲での展開が大いに期待出来る。

(コメント)

- 多数の事業展開が計画中、あるいは進行中であり、台湾など近隣アジア諸国からも食のトレーサビリティを始め強い期待が寄せられている点が評価できる。
- 技術的な充足性は不明であるが、実証実験は良くやっており、それに伴う水平展開もされている。
- 普及に向け、活動の継続性が重要である。

(6) その他(広報活動 等) : 評価A

(総論)

優れている。

(コメント)

- 報道は十分である。
- 国際会議におけるキーノート・スピーチ等の広報活動や ITU-T 等への標準化の取り組みが評価できる。